

俳優・水澤心吾の一人芝居 「決断! 命のビザ」を鑑賞

トラベル懇話会は7月3・4日、長野県の八ヶ岳高原ロッジで恒例の夏期セミナーを開催した。

例年、各分野の専門家や著名人を招いた講演会を開催してきたが、

今年は趣向を変え、ある人物の物語を題材とした一人芝居を鑑賞した。

その人物とは、第二次世界大戦中に活躍した外交官、杉原千畝。演じたのは俳優の水澤心吾氏だ。

夏期セミナーで上演された「決断! 命のビザ」の主人公、杉原千畝は実在の外交官だ。第二次世界大戦中に、多くのユダヤ人をナチス・ドイツの迫害から守った人物として知られる。多くのユダヤ人をホロコーストから救ったドイツ人実業家、オスカー・シンドラーになぞらえ、海外では「東洋のシンドラー」と呼ばれることもある。

1940年にリトアニアの日本領事館で領事代理を務めていた杉原は、迫害を逃れてヨーロッパ脱出を図っていたユダヤ人避難民に独断で通過ビザを発給。ヨーロッパから日本を経由する第三国への脱出を手助けた。当時、ドイツと同盟関係にあった日本政府は、杉原のこの措置を問題視し、ほどなくして杉原は外務省から去らざるを得なくなる。しかし、それと引き換えに6000人のユダヤ人を救った杉原の名は、元避難民やその子供たち、いわゆる“スギハラチルドレン”の間で語り継がれ、2000年には日本の外務省が杉原に対して正式に謝罪した。



優しき人間の尊さ

この杉原を題材とした一人芝居「決断! 命のビザ」を演じるのが俳優の水澤心吾氏だ。オーストラリア国営放送のドラマに出演するため、4か月ほど滞在している最中に、世界が共感できる日本の作品を作りたい気持ちが湧いたという。テーマを探すなか、水澤氏の頭にふと思い浮かんだのが、以前テレビで紹介されていた杉原千畝のエピソードだった。杉原を演じることを決断した水澤氏は、「決断・命のビザ」の著者、渡辺勝正氏を訪ね、同書を原作として杉原の物語を舞台化したいと申し出て快諾を得た。

水澤氏が舞台化するにあたり、こだわったのは、「同じ立場に立たされたら私はどうしていただろうか」という思いと、「杉原をこのような行動に走らせた根本にあるものは何なのか」という2つの思いだったという。「決断! 命のビザ」の紹介文の中で水澤氏は、「杉原千畝は、私たち日本人が世界に誇ることができる人道的行為を行った人物です。けれど、彼に全く迷いがなかったわけではありません。自分はもちろん、妻や子の命の安全が脅かされるかもしれない。そのような状況のなかで、悩み抜いた末、決断したのです」と解説している。

また、杉原が最終的に通過ビザの発給を決めた理由は何だったのだろうかとの本誌の質問には、「優しさだと思います」と答えている。04年から始めた朗読会を経て、07年から始めた一人芝居の初演当時は、決断する勇気の尊さを感じてほしかったとい

うが、200回以上の講演を重ねるなかで水澤氏の思いも徐々に変化していった。現在では、「杉原を演じることを通して、人間の優しさを強く感じる」という。

旅行業の本分に通じること

杉原の物語は、旅行業界と無縁ではない。通過ビザの発給に尽力し、日本への脱出口を開いたのが杉原なら、その移動を可能にしたのは日本の旅行会社だった。JTBによると、ユダヤ人避難民の脱出行の裏ではJTBの前身であるジャパン・ツーリスト・ビューローの職員たちの活躍があったという。杉原のビザを手にしたユダヤ人避難民は、シベリア鉄道でウラジオストクへ向かい、ここから日本船「天草丸」で日本へ渡った。

この天草丸を手配したのが、ジャパン・ツーリスト・ビューローだった。米国のユダヤ難民救済協会から米国旅行会社を経由して船の手配を依頼された同社は、杉原と同じような葛藤に悩みつつも人道的見地から船を用意することを決断。日本への渡航を手助けした。

ジャパン・ツーリスト・ビューローの判断にも、杉原の場合と同じように賛否両論がある。しかし、人々の移動を助けるという旅行会社の本分をまっとうしたものであることは間違いない。「決断！命のビザ」の上演に先立ち、トラベル懇話会の福田叙



Profile

みさわ・しんご●1950年滋賀県生まれ。高校卒業後、19歳で上京。74年「劇団俳小」入団。77年「天守物語」で坂東玉三郎の相手役を演じ、本格的に俳優の道へ。NHK朝の連続ドラマ小説「わたしは海」でヒロインの相手役を務める。俳優業の傍らビジョン心理学を学び、演技メソッドと心理学を融合したヒーリング心理学を確立し、心理トレーナーとしても活躍。

久会長（アサヒトラベルインターナショナル社長）は、「人が移動する際のバリアを、どうなくしていくのか、われわれにとって大変大きなテーマのひとつという観点から、非常に興味深い舞台だと思う」と挨拶。旅行業界にとっても興味深いテーマであるとの期待感を示した。

八ヶ岳の自然の中で学んだ2日間

第37回夏期セミナーは、八ヶ岳の大自然の中にある八ヶ岳高原ロッジで実施された。39人が参加し、1泊2日の日程で行われたセミナーは、初日のピアノコンサート鑑賞から始まった。会場は標高1500mの冷涼な大気に包まれる八ヶ岳高原音楽堂。自然と環境に調和した木造りのホールで、ピアニストの吉岡裕子氏が、モーツァルトやショパンなどの名曲スタンダードや、杉原千畝にちなみリトアニアの楽曲などを演奏した。

コンサート後に食事を済ませてからは、夏期セミナー名物の意見交換会。アルコールをたしなみつつ、ざっくばらんな雰囲気の下で、会員同士が胸襟を開いて意見交換。さまざまな話題を共有することで親睦を深めた。



2日目は早朝のネイチャーウォークを実施し、自然観察指導員の案内で八ヶ岳の自然を満喫。心身ともリフレッシュし、「決断！命のビザ」を鑑賞した。